



友好都市提携 40 周年に向けて

中国国歌の作曲家・聶耳の絆により、藤沢市と昆明市が1981年11月5日に友好都市提携の調印を行ってから、まもなく40周年を迎えようとしています。この40年間、多くの先達の努力により様々な友好事業が実施され、両市市民の交流が絶え間なく続いています。

藤沢・昆明友好都市提携40周年記念事業実行委員会としては、コロナ禍という非常に厳しい状況のなかで、恒例の市民訪問団の派遣や昆明市での文化交流展の開催は中止せざるを得ませんでした。オンラインでの日中文化交流、40周年記念誌の発行、記念グッズの作成など実施可能な記念事業に取り組んでいます。文化交流ではすでに美術家協会、華道協会、雅楽協会などがオンラインによる昆明市への日本文化紹介を準備しています。また40周年記念誌に



7月26日に行われた第3回実行委員会(藤沢市役所)

ついては、友好の絆となった聶耳の紹介、記念碑建設と保存の経緯、友好都市提携40年の歴史、市民訪問団に参加した市民からの寄稿などにより構成されており、10月末に発行を予定しています。また記念グッズとしてエコバッグを制作中です。

聶耳記念碑を参拝しました



1935年7月17日に鵠沼海岸で遊泳中に遭難した聶耳の命日に合わせ、湘南日中の会員15名で記念碑を参拝し献花を行いました。当日は梅雨明けの真っ青な空と、目の前には穏や

かな波が打ち寄せる湘南の海が広がり、聶耳が愛してやまなかった藤沢と彼の最後の日々が偲ばれました。初めて参加した会員も改めて聶耳の事績に触れ、思いを新たにしたところです。

日本語教室が再スタート



懸案事項となっていた湘南日中の日本語教室が8月6日(金)から再スタートしました。藤沢市内で生活する中国人市民からの日本語を学びたいという要望に応じて、日中友好を基本として日本語の教育支援を行っていきます。授業は講師が毎週1回マンツーマンで教え、生徒の日本語能力に合わせて柔軟に対応します。授業料は無料(教科書等は実費負担)、講師は湘南日中会員による無償ボランティアとし、会場は市民活動推進センターなどを使います。

すでに当ニュース5月号でもお知らせしましたが、日本語教室かわせみが規約上の問題を残したまま4月に一方的に湘南日中から離脱したため、その後の役員会でも対策を協議し、この日本語教室の事業計画を総会にも提案し承認されたものです。7月の役員会において講師など運営スタッフの参加要請を受けて11名の役員が参加することとなり、代表(担当役員)に鈴木副理事長、会計に岡部理事がそれぞれ選出されました。いまボランティア日本語講師をやっていただけの会員の参加を募っています！

彩雲基金ご寄付のお礼

日頃彩雲基金へのご支援を頂きありがとうございます。コロナ禍のなか今年の第11回スピーチコンテストは無事に開催され、優勝者らは来年の来日を心待ちにしております。

8月末日現在で、27人から278,500円のご寄付を頂きました。心からお礼を申し上げるとともに、引き続きのご支援をお願いします。

新年度役員会を開催



6月総会後の新役員による最初の役員会が7月17日に市民利用会議室で行われ、柳田会長以下19人の役員全員が出席しました。緊急事態宣言の発出によりたびたび中止に追い込まれましたが、3密を避けるなどコロナ対策を十分にとったうえでの開催に努力しています。

映画「華のすみか」



華僑4世の林隆太監督が自身のルーツをたどり、日中台の政治に翻弄されてきた横浜華僑の苦難と葛藤の歴史、そして共生の時代を歩む現在の姿を描いたドキュメンタリーです。あの曾徳深さんもインタビューで登場します。必見！9/10まで横浜シネマリン(関内)で上映中。

事務局から 昨年初頭から始まったコロナ禍。一向に終息する気配もなく緊急事態宣言もついに4回目。いささか「宣言慣れ」と「自粛疲れ」の様相だ。ワクチン接種の順番がようやく回ってきて、何とか2回目の接種を7月中に終えた。一安心と思っていたら、中止を求める多くの国民の声を無視して2020東京オリンピックが開催となる。とてもコロナ対策が優先とは思われない。(上野)

